

# テノール・アリア「従いかしこみて」 K.210 —— 対応するオペラを調査する（その 1） ——

野口秀夫

## 1. はじめに

鳥代：今回はテノール・アリア「クラリーチェは私のいとしの妻になるはず Clarice cara mia sposa」 K.256 が 1776 年にザルツブルクで上演されたピッチンニのオペラ《うかつな男あるいは幸運な賭博師 L'Astratto, ovvero Il giocatore fortunato》第二幕 第 20 場の代替アリアあるいは挿入アリアであるという説を紹介しました<sup>注1</sup>。

犬輔：今回はテノール・アリア「従いかしこみて Con ossequio, con rispetto」 K.210 がどのオペラへの挿入／代替アリアなのかを調査しましょう。

鳥代：自筆譜の上部左余白にレーオポルト筆で Aria Buffa、上部右隅にモーツァルト自筆で di Wolfgango Amadeo Mozartmp / nel Maggio 1775.と書かれているといいます<sup>注2</sup>。

犬輔：mp はラテン語の“自署 manu propria”の縮約形ですね。1775 年 5 月ということですから、ザルツブルクに旅回りのイタリャ座であるエミーリオ座が滞在していた期間に当たります。K.210 はその一座が上演したオペラ・ブッフアへの挿入／代替アリアではないかと思われます。

教授：従來說があるから、まずそれを吟味することだ。

## 2. テノール・アリア「従いかしこみて」 K.210 の挿入先に関する従來說

鳥代：従來說が見つかりました<sup>注3</sup>。「[K.210 は] アリア「クラリーチェは私のいとしの妻となるはず」 K.256 と同じく、ニコロ・ピッチンニのブッフア作品《うかつな男または幸運な賭博師》（台詞：G.ピエートロセリーニ）の第二幕第 20 場への挿入アリアとして作曲された」と書かれています。

犬輔：「このことからこのピッチンニの作品が、1775 年と 76 年にザルツブルクで上演されたことが確かめられる」とまで述べていますが、本当にそうなのでしょうか。1775 年はエミーリオ座、1776 年はローザ座でしたから、異なる一座が 1 年の間隔で同じ演目を上演するとは考えにくいですね。

鳥代：さらには「このオペラの第二幕第 20 場では、K.256（大尉とティモーテオのアリア）のあとに K.210（ティモーテオ？のアリア）が続くものと考えられる。なお、原作ではこの第 20 場は全体がレチタティーヴォ・セッコのかたちで作られており、結尾にアリアがある」と訳の分からない記述もあるわね。K.256 は 1776 年の作品であり、K.210 は 1775 年の作品ですから時間順序が逆ですし、第 20 場の全体がレチタティーヴォ・セッコであると言いながら、結尾にアリアがあるというのは説明が矛盾しています。

犬輔：確認のため、第 20 場の後半を見ておきましょう。

表 1 『うかつな男あるいは幸運な賭博師』（1775 パルマ）第二幕 第 20 場後半

Cap. La Scherma in Londra, In Roma la Pittura, La Medicina in Tunisi...	大尉 ロンドンではフェンシング、 ローマでは絵画、 チュニスで医術...
Tim. Son disperato... Almeno una parola.	ティモーテオ お願いします… 一言だけでも。
Cap. Sì, la vosira Figliuola La voglio ad ogni patto.	大尉 だからあなたの可愛い娘さんを どんな犠牲を払ってでも頂きたい。
Tim. E se io vi dicessi...	ティモーテオ もし私がこう言ったら...
Cap. Oh non direste...	大尉 ああ、そんなことは言わないでしょうね...
Che cosa da par vostro. Vi do tempo mezz'ora: risolvete Con libertà, con pace;	あなたらしくないですね。 30 分の猶予です。 自由に、平和的に解決してください。
Ma non dite di no, che mi dispiace. (Parte.)	でも、ノーとは言わないで。失礼します。(退場)
Tim. Io son quello, che ciarlo? Maledetto! Non ho potuto dirgli Neppure due parole.	ティモーテオ 僕は当事者だ、何を饒舌に？ 僕は呪われたのか！ 僕は彼に 二の句が継げなかった。
Ah ch'io temo affogar le mie Figliuole. (Parte.)	ああ、娘たちに無理強いするのが怖い。(退場)

鳥代：K.256 は大尉が退場せずにこの場の最後までを大尉とティモーテオで歌うためのものでした。

犬輔：そこにさらにティモーテオが歌う K.210 を入れる余地はありませんよ。

鳥代：では K.210 の歌詞を見ておきましょう。モーツァルトが楽譜に記したままの順番で、繰り返しも含んで訳します<sup>注 4</sup>。

表 2 テノール・アリア「従いかしこみて」K.210 の歌詞

<p>Con ossequio, con rispetto, con rispetto Io m'inchino, e mi profondo a un sapiente si perfetto, a un sapiente si perfetto, che l'egual non v'è nel mondo, e l'eguale non verrà (per l'orgoglio, e l'ignoranza, per la gran bestialità).</p> <p>Con ossequio e con rispetto io m'inchino, e mi profondo A un sapiente si perfetto, che l'egual non v'è nel mondo, e l'eguale non verrà (per l'orgoglio, e l'ignoranza, per la gran bestialità), e l'eguale non verrà (per l'orgoglio, e l'ignoranza, per la gran bestialità), e l'eguale non verrà, e l'eguale non verrà.</p> <p>Con ossequio e con rispetto io m'inchino, e mi profondo a un sapiente si perfetto, a un sapiente si perfetto, che l'egual non v'è nel mondo, e l'eguale non verrà (per l'orgoglio, e l'ignoranza, per la gran bestialità), io m'inchino e mi profondo a un sapiente si perfetto, a un sapiente si perfetto, che l'egual non v'è nel mondo (per l'orgoglio, e l'ignoranza) e l'eguale non verrà (per la gran bestialità), e l'eguale non verrà.</p> <p>Io m'inchino e mi profondo a un sapiente si perfetto, che l'egual non v'è nel mondo (per l'orgoglio, e l'ignoranza), e l'eguale non verrà (per la gran bestialità), e l'eguale non verrà.</p> <p>(Per l'orgoglio, e l'ignoranza, per la gran bestialità, bestialità, bestialità), e l'eguale non verrà, e l'eguale non verrà, non verrà, non verrà.</p>	<p>敬意をもって、敬意をもって、敬意をもって私は頭を下げ、非常に完璧な賢者の前で謙虚になります。非常に完璧な賢者なので、この世に並ぶ者はいませんし、並ぶ者は現れないでしょう（傲慢さと無知と大きな愚かさのためです）。</p> <p>尊敬と敬意をもって、私は賢者の前で頭を下げ、謙虚になります。この世に並ぶ者はいないほど完璧で、並ぶ者は現れないでしょう（傲慢と無知と大いなる愚かさのため）。並ぶ者は現れないでしょう（傲慢と無知と大いなる愚かさのため）。並ぶ者は現れないでしょう。並ぶ者は現れないでしょう。</p> <p>尊敬と敬意を込めて私は頭を下げ、あまりに完璧な賢者の前にへりくだります。あまりに完璧な賢者なので、この世に並ぶ者はいませんし、並ぶ者は決して現れないでしょう（傲慢と無知と大きな愚かさのせいで）。私は頭を下げ、あまりに完璧な賢者の前にへりくだります。あまりに完璧な賢者なので、この世に並ぶ者はいませんし、並ぶ者は決して現れないでしょう（傲慢と無知のせいで）。並ぶ者は決して現れないでしょう。</p> <p>私は、この世に並ぶ者がいないほど完璧な賢者（彼の傲慢さと無知のせいで）の前で頭を下げ、謙虚になります。そして、並ぶ者は決して現れないでしょう（彼の大きな愚かさのせいで）。そして、並ぶ者は決して現れないでしょう。</p> <p>（傲慢と無知のため、大きな愚かさ、愚かさのため）、並ぶ者は決して現れないでしょう、並ぶ者は決して現れないでしょう、現れないでしょう、現れないでしょう。</p>
--	---

教授：従来説を「ティモテオが退場せずに K.210 を歌う」と解釈してはどうか。

犬輔：大尉が饒舌なため、発言を妨げられているティモテオが、「二の句が継げなかった」と言った後に「敬意をもってお辞儀します」などと歌うだろうか。「賢者の前で謙虚になります」というような屈服もありえない。つまり歌詞からは第 20 場にそぐわないと思われる。

鳥代：何よりも大尉がテノールで、ティモテオはバスですから、ティモテオが K.210 を歌うというのはありえないでしょう。

教授：つまり、諸君たちは K.210 が《うかつな男または幸運な賭博師》への挿入アリアではないと言いたいのだね。

犬輔・鳥代：そうです。他に該当するオペラを探さなくてはなりません。

教授：大変な課題を設定したものだ。調査は困難を極めることを覚悟したまえ。

### 3. テノール・アリア「従いかしこみて」K.210 と類似の歌詞を持つ作品

犬輔：まずは K.210 と類似の歌詞が出てくる作品をネット検索してみましょう。何らかのヒントが得られるのではないかと思います。

鳥代：ありました。「この世に並ぶ者はいません Che l'ugual non v'è nel mondo」で検索するとフェデリコ・リッチの二幕のメロドラマ・コミコ《ド・シャリュモー氏》の第一幕第 5 場に次の場面がありました。プロットは「紳士が“公爵と貴族”の家にいるのに、宿屋にいると思い込んでその犠牲になるという神秘的な物語である。彼らは彼に卑劣ないたずらをするが、彼が奪った使用人への古い借金を返済させることも忘れない。結局、すべてはうまくいき、公爵が寛大で礼儀正しい人物であることが証明される」というものです。

表 3 《ド・シャリュモー氏》の第一幕第 5 場から

<p>Chal. E' un bell'affare? Duca Tocca il cielo con un dito Chi la man gli potrà dare. Chal. Circa dote? ...</p>	<p>シャリュモー それはお得ですか？ 公爵 そこに手を置くことができる者は、 指で空に触れることができる。 シャリュモー 資金についてですか? ...</p>
--	--

Duca Oh! tiene un fondo <b>Che l'ugual non v'e nel mondo.</b> Chal. E'pedina? è Dama? o etcetera?... Duca Viscontessa. Chal. Sangue blò! (con soddisfazione). Chal.a 2 Sono il prence dei Bertoldi Se scappar fo questa quaglia Nobiltà, bellezza e soldi, Terno a secco che non sbaglia. Quà la sort! ah! me la godo Proprio in tempo mi balzò. Quì piantar si deve il ohiodo; Son chi son, lo pianterò.	公爵 おお！世界でも類を見ない 基礎条件を持っています。 シャリュモー それは宮仕え？貴婦人？それとも？... 公爵 子爵夫人です。 シャリュモー 青い血だ [=名門の出だ] ！（満足して。 シャリュモー、公爵の二重唱 私はベルトルディ家の王子です この貴族、美貌、富の ウズラが逃げても 決して失敗しない数字合わせゲームがある。 ツキが来たぞ！ああ！ちょうど私に 飛び込んできたので楽しんでます。 ここに打ち込むべきである。 私は私です、私はそれを残します。
--	---

教授：諸君たちはこのオペラの年代が 1836 年であることは調べたのかね。全く関係のないオペラだ。

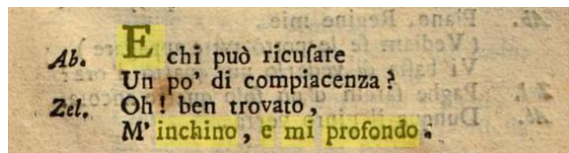
犬輔：「傲慢と無知のため per l'orgoglio e l'ignoranza」が『科学と信仰 La Scienza e la fede』に使われています。

表 4 『科学と信仰』から

Ma ritorniamo al Collegio di Francia. Jouffroy è un profeta, il quale dichiara il Cristianesimo puro, legittimo, esprimente una verità, ma l'antico nella sua origine; intanto <b>per l'orgoglio e l'ignoranza</b> essendosi a poco a poco perduta di tal verità l'intelligenza, sorgerà, esclama, una fe de novella che quel voto immenso prodotto dalla mancanza di ogni dottrina verrà a riempire. Damiron è profeta, che predice la prossima fusione del cattolicesimo nell'eclitismo, il quale accettandone tutti i dogmi li spiega, e fa scomparire l'oscurità de' misteri.	しかし、コレージュ・ド・フランスに戻りましょう。ジュフロワは、キリスト教が純粹で正当であり、真実を表現しているが、その起源は古いと宣言する預言者です。その間に、 <b>傲慢さと無知のために</b> 、この真実の知識は徐々に失われ、教義の欠如によって生じた巨大な空虚を埋める新しい信仰が生まれるだろうと彼は叫ぶ。ダミロンは、カトリックが折衷主義に融合し、そのすべての教義を受け入れることで教義が説明され、神秘の不明瞭さが消えることを予言した預言者です。
---	---

教授：これも 1847 年の書籍だ。

鳥代：フェルディナンド・パエールの滑稽音楽劇《サイードあるいは後宮 Saed ossia il serraglio》に「私は深くお辞儀をする m'inchino, e mi profondo」という歌詞が出てきますよ。



教授：それも 1798 年の作品だ。考えてみれば分かることだが、「尊敬し、深くお辞儀する ossequio rispetto inchino profondo」は日本古来の美德を説明するときに用いられる表現である。このようによく使われる語句で検索しても結果は発散するばかりだ。

鳥代・犬輔：分かりました。アプローチを変えましょう。

#### 4. テノール・アリア「従いかしこみて」K.210 の挿入先候補

教授：個別の作品に当たって、アリアの挿入可否を確認してはどうか。

犬輔：候補となりうるのはオペラ・ブッフアです。オペラ・セーリアと違って台本が多岐にわたるので調査の対象を絞ってから取り掛かる必要があるでしょう。

鳥代：「ヴィーンにおけるイタリア・オペラ・ブッフア (1763–1773)」というサイトがあるから、ここにリストアップされている作品から候補を選びましょう。

#### (1) ジュゼッペ・ガッツァニーガ《カランドラーノ》(ヴェネツィア 1771)

犬輔：このオペラの登場人物は以下のとおりです。

ツェルビネッタ：アガビートの娘。カランドラーノと婚約しており、ジェルヴァジオの恋人。  
ジェルヴァジオ：ラッツァリーナの婚約者、ツェルビネッタの恋人。  
カランドラーノ・スカフージオ：ツェルビネッタの夫となる約束の老いた守銭奴。  
モデスタ：アガビートの家の使用人。  
アガビート：ツェルビネッタの父。  
ラッツァリーナ：カランドラーノの孫娘、ジェルヴァシオの婚約者。

鳥代：K.210 は挨拶をするという歌詞なので、初対面の人物が登場する場面を探しましょう…。えーと、第一幕第 6 場がそれに相当すると思われます。

表 5 カランドラーノ初登場の第一幕第 6 場

<p><i>Campagna con Osteria.</i> <i>Il Signor Calandrano, che legge una Carta, Lazzarina, e l'Oste con Beretta in mano.</i> Cal. Signor Oste, non crediate, Che in un pò di refezione La metà delle mie entrate Quà vogl'io fagrificar. (<i>Due gran zappe: erbaggi, e pasta.</i>) Non Signore, che una basta. (<i>Sei Piccioni in fricassè.</i>) Non Signor, non fan per me. (<i>Due Capponi...</i>) Basta un pollo. Signor Oste, a rompicollo Mi vorreste far andar. (<i>Beccafichi, e buone Osselle...</i>) Ah, ch'io vedo, che la pelle Mi vorresti scorticar! A due lire per tresta Regularvi dovette. E chi non cena Non pagal già si sà... (<i>parte l'Oste.</i>) Questi Osti son pur senza carità! Laz. Mi sembra, che alla Sposa Per la prima occasione Dar vogliate una trista colazione.</p>	<p>宿屋のある田舎。 新聞を読むカランドラーノ氏、ラッツァリーナ、 そしてビレッタ帽を手に持った宿屋の主人。 カランドラーノ 宿屋のご主人、収入の半分を ちょっとした昼食に 費やしたいとは思 わないでください。 (2 つの大きな鰯：野菜とパスタ。) いいえ、1 つで十分です。 (鳩 6 羽のフリカッセ) いいえ、それは私のものではありません。 (カボンが 2 羽…) 鶏は 1 羽で十分です。 宿屋の主人、あなたは私を猛スピードで 走らせたいのでしょうか。 (ニワムシクイ、そして良いオッセラ硬貨…) ああ、あなたが私の肌を 剥ぎたいのはわかりました！ 3 つで 2 リラ 調整する必要がある。食事をしない者は支払わな い、ご存じのとおり... (<i>宿屋の主人は退場</i>) この宿屋の主人は慈悲心がない！ ラッツァリーナ 花嫁に 初めての機会に 悲しい朝食をあげたいと思っているようです。</p>
--	--

犬輔：ここでカランドラーノは宿屋の主人に頭を下げているわけでも、賢人と呼んでいるわけでもありませんから、このオペラは候補になりませんね。

(2) ジョヴァンニ・パイジエツロ《ドン・アンキーゼ・カンパノーネ》(ナポリ 1772)

鳥代：登場人物は以下の通りです。

ドンナ・ソフォニスバ：ドン・ルティリオの妻。 ドンナ・カンディダ：ドン・ルティリオの最初の愛人の娘。ドン・オッターヴィオに恋をしている。 ドン・オッターヴィオ：ローマの紳士であり、ドンナ・カンディダの内気な恋人。 カルモシーナ：ドン・ルティリオの家の使用人。フィケッティ修道院長に恋をしている。 ドン・ルティリオ：医師であり、ドンナ・ソフォニスバの夫。 ドン・アンキーゼ・カンパノーネ：ドンナ・カンディダの運命の夫。 フィケッティ修道院長：ドン・ルティリオの医師であり、ドン・オッターヴィオの腹心。 ピロレット伯爵：騎士。ドンナ・ソフォニスバの召使。ドンナ・カンディダと結婚する意向がある。
--

犬輔：作者の言葉によれば、この作品は、1766 年にフィレンツェの劇場で「2 人が争えば 3 人目が得をする」という題名で上演されたということです。

鳥代：賢人とは「カタログを羅列する登場人物」と考えられるので、そのような人物としてピロレット伯爵を見ておきましょう。

表 6 伯爵が歌うカタログのアリア

<p>Conte. Un duello? mi tocchi giufto al debole. L'ammazzerò, s'egli vorrà. Nell' Indie che nonhofatto in Londra, e nella Francia? E ancor ne porto sopra più di un segno: Lo sfiderò: la mia parola impegno. Madama, col paloffo che non ho fatto in Francia? Col Rodian colosso l'ho pefa a pancia a pancia, e nell'Oceano in barca vicino Danimarca, colle colonne d' Ercole ho dovellaro ancor. (Spadino innocentiffimo, sai tu fe fuor del fodero vedefti mai risplendere raggio di fole ancor.) Madama, fono un fulmine: Lo giuro ful tuo onor.</p>	<p>伯爵 決闘？私の弱いところに触れるんですね。 彼が望むなら、私は彼を殺します。インドで、ロンドン やフランスで私がやらなかったことは何でしょう？ そして、私は今でもその兆候をいくつも持っています。 私は彼に挑戦します：私は約束します... 奥様、私がフランスでやらなかったことは 何でしょう？ ロードス島の巨像とは 腹を突き合わせて戦い、 デンマークの近くの海では、 船に乗って ヘラクレスの柱と 真っ向から対決しなければなりませんでした。 (無邪気な小さな剣よ、 鞘の外から一筋の 光が輝くのを 見たことがあるか？) 奥様、雷鳴が聞こえます。 あなたの名誉にかけて誓います。(行く)</p>
---	---

犬輔：でも賢人に挨拶をするのが伯爵夫人となってしまうので、これも候補外ですね。

## (3) ジョヴァンニ・パイジエツロ《ラ・マンチャのドン・キホーテ》(ナポリ 1769)

鳥代: こちらの登場人物は以下の通りです。テノールのドン・ガラフローネ伯爵が疑われますが、伯爵ですから賢人に挨拶する役ではないと思われます。

伯爵夫人: 陽気な女性 (ソプラノ)  
公爵夫人: 彼女の友人であり、同等の才能を持つ (ソプラノ)  
リッチャルデッタ: 宿屋の召使 (ソプラノ)  
ドン・プラトーン: 伯爵夫人の恋人、旅する騎士 (ベース)  
ドン・ガラフローネ伯爵: 伯爵夫人のもう一人の騎士の恋人 (テノール)  
カルモシーナ: 伯爵夫人の召使 (ソプラノ)  
カルドレッタ: 田舎で宿屋を経営する人 (ソプラノ)  
ラ・マンチャのドン・キホーテ: 遍歴の騎士 (テノール)  
サンチョ・パンサ: ドン・キホーテの従者 (バス)

## (4) バルダッサレ・ガルツピ《愛の陰謀 Gli intrighi amorosi》(ヴェネツィア 1772)

犬輔: 「カタログを羅列する登場人物」は新参者であると考えられるので該当しません。

レーナ: 機知にとんだ庭師  
フィオリベッロ伯爵: 気まぐれな恋人  
パスキーノ: 伯爵の愚かな召使  
ドンナ・オーロラ: 歌手  
フルジェンツィオ: 錬金術師、ロジーナの叔父  
ロジーナ  
クロマティコ: 音楽教師  
セルビラ: ロジーナの侍女

## (5) フローリアン・ガスマン《鳥捕り人 Gli uccellatori》(ヴェネツィア 1759)

鳥代: 登場人物は 7 人です。第 1 場でピエロット、トニオーロ、チェッコが揃って出てきますので、彼らが K.210 を歌うことはないでしょう。

アルメリンダ伯爵夫人  
リカルド侯爵  
ロッコリーナ: チェッコの恋人  
チェッコ: ロッコリーナの恋人  
マリアンニーナ  
ピエロット  
トニオーロ

犬輔: 第一幕第 4 場の侯爵のレチタティーヴォに「挨拶」という言葉が出てきますよ。

表 7 挨拶という言葉が出てくる第一幕第 4 場

Il Marchese Giovinette gentili io saluto. Mariannina Oh Signor, ben venuto. Il Marchese La Contessa che fa? Mariannina Credo stia bene. Il Marchese Ditele, che Riccardo a lei sen viene. Roccolina Io io Signor Marchese Io farò l'imbasciata. Il Marchese Sì, fatemi il piacere, Poi saprò il mio dovere. Roccolina E lo sappiamo Ch'è generoso assai. (Proomette sempre, e non attende mai.) (parte.)	侯爵 私は優しい若い女性たちに挨拶します。 マリアンニーナ ああ、ようこそ。 侯爵 伯爵夫人は何をしていますか? マリアンニーナ 彼女は大丈夫だと思います。 侯爵 リカルドが彼女のところに行く伝えてください。 ロッコリーナ 私、私、侯爵様、 私が使節をお届けします 侯爵 ああ、頼むよ。 そうすれば私の義務が分かるだろう。 ロッコリーナ そして私たちは彼がとても寛大な人だということを知っています。 (彼はいつも約束し、決して待たない。) (退場)
---	--

鳥代: 侯爵が挨拶をする相手は賢人ではなく、優しい若い女性たちですから違います。

## (6) ニッコロ・ピッチェニ《奇妙なもの Gli stravaganti》(ローマ 1764)

鳥代: 登場人物は 4 人と少なく、全員が知り合いのようです。

レリオ: リヴォルノ出身の紳士、アルミンダの恋人  
アルミンダ: 奴隷。後にアスドルバーレの妹であることが判明  
アスドルバーレ: 船長、風変わりな男  
ネリーナ: コーヒーメーカー

犬輔: 第一幕第 1 場は「レリオはカフェのドアの近くで騎士の友人ネリーナとカードゲームをしています。船からアルミンダとアスドルバーレが降りてきます」とあり、全員が登場します。このオペラには賢人に挨拶する場面はないと思われます。

(7) ジェンナロ・アスタリッタ《夢想家たち I visionari》(ヴェネツィア 1772)

犬輔：詩人、天文学者、哲学者のうちの一人が賢人と呼ばれる可能性があります。

クラリーチェ：ジュリアーノの恋人  
ジュリアーノ  
レアンドロ：詩人  
カサンドラ：哲学者  
フォキオン：天文学者  
ロジーナ：ペトロニウスの召使い  
ペトロニウス：哲学者、クラリスとカサンドラの父

鳥代：第 1 幕最初は「ペトロニウス、カサンドラ、フォキオン、レアンドロがそれぞれのテーブルに座って、勉強している。するとロジーナが到着する」という場面です。賢人候補の全員が登場していますから、ここには挨拶やお辞儀のチャンスはありませんね。

犬輔：第 2 幕最初ではペトロニウスがしきりに科学のことに言及しますが、フォキオンとレアンドロはクラリーチェを巡って鞘当てをします。シチュエーションとしては K.210 に相応しいですが、ぴったりと嵌りません。

(8) ニッコロ・ピッチニ《愛の騎士 Il cavaliere per amore》(ローマ 1763)

犬輔：登場人物は 4 人です。

フロリンド：騎士のふりをした商人  
ピアントーネ：裕福な農民で、ユーリラの父  
ユーリラ：気取った農婦  
リゼッタ：同じく召使い

鳥代：第一幕第 7 場にはカタログのレチタティーヴォがありますので、参考までに訳しておきましょう。

表 8 カatalogのレチタティーヴォ

<p>Flo. Chi puo servirla Meglio di me? Rimetto Ad un Tempo più comodo A fargliene la carta Topografica Per ora accettera la Geografica. Mia diletta Damigella Questa diletta Europa bella E' formata giusto giusto Come voi formata soete; Figuratela così: E' quel braccio l'Inghilterra, E l'Italia è questa qui: Testa, collo son la Spagna Son la Francia il petto è l'bufto Forma il corpo l'Alemagna E la Russia e la Turchia La Pollonia, l'Ungheria Son la Gonna finto al piè E non solo Eurilla amabile Voi l'Europa figurate Ma in voi tutte concentrate Grazzia, vezzi, e venustà In lei sparte in quà, a in là Siete bella alla tedesca Alla Turchesca Alla Francese et cetera Ed io misero che porto Di bellezze addosso un mondo Se da voi non ho conforto Dove mai si troverà Un Amante più acciaccato Stritolato al par di me!</p>	<p>フロリンド 私よりあなたに良くお仕えできる人は誰ですか? 地形図を作るのはもっと都合のいい時に任せます。今のところは、地理図で十分でしょう。私の愛しい乙女よ、この愛しい美しいヨーロッパは、あなたと同じように形作られています。次のように考えてみましょう。その腕はイギリス、もう片方の腕はイタリアです。頭と首はスペイン、胸とお腹はフランス、ドイツが身体を構成し、そしてロシア、トルコ、ポーランド、ハンガリーは足元の見せかけのスカートだ。そして、あなたは愛想の良いユーリラとしてヨーロッパを代表するだけでなく、あなたの中に凝縮された優雅さ、魅力、美しさがあちこちに広がっています。あなたはドイツ風、トルコ風、フランス風など、それぞれに美しいのです。哀れな私ですが、背中には美しい世界が広がっています。もしあなたからの慰めがなければ、私のように打ちのめされ、打ちのめされた恋人がどこにいるというのでしょうか。</p>
--	---

犬輔：でも賢者に挨拶する場面にはなりません。

(9) ニッコロ・ピッチニ《頑強な塔の男爵 Il barone di Torre forte》(ローマ 1765)

鳥代：登場人物の中に賢者や挨拶関連の人物は見当たりませんね。

エルヴィラ・ルチンダ：後に男爵の娘であることが判明。アルミドーロの恋人で、男爵は知らない。  
アルミドーロ：兄のふりをする  
頑強な塔の男爵：後にルチンダの父親であることが判明  
セルピーナ：男爵の家で育った、機知に富んだ少女



## (10) カルロ・ゴルドーニ 5 幕の喜劇《後見されている娘 La Pupilla》(1757)

犬輔：オペラではないのですが、喜劇に出てくる賢者を見ておきましょう。

ルーカ卿：後見人  
カテリーナ：後見されている娘  
ブラチーダ：召使い  
オラーツィオ：若者  
パンフィーロ：召使  
クァーリア：居候  
看護師

鳥代：確かに第二幕第 3 場に賢者らしき人物への言及があります。

表 9 《後見されている娘》第二幕第 3 場前半

SCENA III. Messer Luca, Quaglia.	第 3 場 ルーカ卿、クァーリア
Luca. Chi è qui? Quaglia. Signore...	ルーカ卿 誰ですか? クァーリア 先生...
Luca. Chi vi ha aperto l'uscio?	ルーカ卿 誰がドアを開けてくれましたか?
Quaglia. Trovailo aperto.	クァーリア 開いていました。
Luca. I servidori al solito Del voler del padrone all'incontrario Vogliono far sempre. Mai le porte chiudono. E vien chi vuole. Quaglia. Non montate in collera, Signor, per me; che sol da sè voi conducemi Cosa che a mio parer non vi può offendere.	ルーカ卿 召使たちはいつものように、 主人の意志とは反対のことをしたいと 思っています。扉は決して閉まらず、 望む人は誰でも入れます。 クァーリア 私のことで怒らないでください。 私があなたに持ってきたものは、 あなたを怒らせることのできないものだけです。
Luca. Che volete da me? Quaglia. Vi vuol proporre Un buon negozio. Conoscete Orazio Figlio d'Anselmo, quel modesto giovane Venuto da Pavia fuor di collegio, Che la legge studiò sotto al Menocchio, E sta qui dirimpetto...	ルーカ卿 あなたは私に何を求めていますか? クァーリア 良いお店をお勧めしたい。 アンセルモの息子オラーツィオをご存知でしょ う。彼はパヴィアから大学の外にやって来て、 メノッキオのもとで法律を学び、 この向かいに住んでいる 慎まじやかな若者です...
Luca. Sì, conosco. Pria d'inoltrarmi in un discorso inutile, S'ei vi mandasse Caterina a chiedermi, La negativa alla richiesta anticipo. Non la vuol maritar. Quaglia. (Corpo del diavolo! I trenta ruspi se ne vanno in polvere; Ma se ingegno mi val, non li vuol perdere). (da sè) Luca. (Ho conosciuta l'intenzion del giovane). Quaglia. Signor, per dire il vero, in parte astrologo Siete, ma non del tutto. Io vengo a chiedervi Per Orazio una donna, egli è verissimo, Ma non è questa Caterina; ei priegavi Che gli accordiate per isposa Placida.	ルーカ卿 はい、知っています。 無駄な会話に入る前に、 もし彼がカテリーナを送って私に尋ねてきたら、 私は事前にその要求を拒否します。 彼は彼女と結婚したくない。 クァーリア (なんたることだ! 30 個の瓦礫は塵と化す。だが私の知恵に価値があ るなら、それを失いたくありません) (単独で) ルーカ卿 (私はその若者の意図を知っていた) クァーリア 先生、実を言うと、あなたは部分的には占星術師で すが、完全に占星術師というわけではありません。 私はオラーツィオにふさわしい女性をあなたに要 求しに来ました。本当です。しかし、それはこのカ テリーナではありません。どうか、彼にブラチーダ を妻として与えてください。

教授：オラーツィオという若者は賢者とは言えないね。ご苦労だったが今回は K.210 を挿入/代  
替できるオペラは見つからなかった。作品はまだまだあるので、時間をかけて調査するこ  
とを勧める。諸君たちには次回までに有力候補の目星をつけておいてもらいたい。

注 1：野口秀夫「テノール・アリア「クラーリチェは私のいとこの妻になるはず」 K.256 —— オペラへの挿入アリア、  
あるいは代替アリア? ——」神戸モーツァルト研究会 第 321 例会

注 2：Küster, Konrad (2002). NMA II/7/1-2: Arien, Szenen, Ensembles und Chöre mit Orchester · Band 1 und 2, Kritischer Bericht

注 3：モーツァルト研究所編「モーツァルト全作品目録——年代順主題解説—— IV, 1775～1777」中央公論社、1977 年

注 4：Kunze, Stefan (1967). NMA II/7/1: Arien, Szenen, Ensembles und Chöre mit Orchester Band 1 ∞

(作成：2025 年 4 月 1 日)